

# アンケート集計結果

日本理化学協会調査部



全国理科教育大会・岐阜大会

大会主題

「豊かな未来を拓く理科教育」

—主体的・対話的で深い学びの実現—

期間 平成30年8月8日（水）～10日（金）

会場 岐阜聖徳学園高校 岐阜聖徳学園大学岐阜キャンパス

平成30年度 日本理化学協会 調査部アンケート結果

I 今年度のアンケートについて

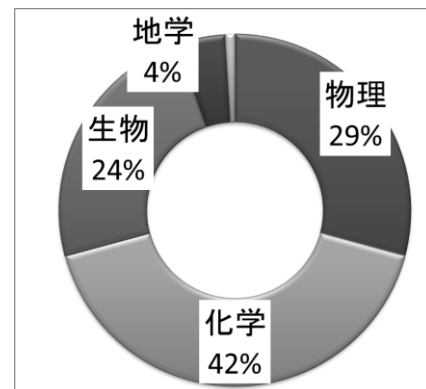
今年度は

- [I] 主体的・対話的で深い学びについて
- [II] 教材準備（教材研究を含む）の時間について
- [III] 大学入学共通テスト試行調査（プレテスト）について

のアンケートを実施しました。

全国からの回答数は、7月24日現在で226となっております。回答者の内訳は、物理66、化学94、生物54、地学10、無回答（未入力）2です。公立高校からの回答が89%を占めております。また、回答学校数は192校で、進学率90%以上が56校、80～89%が19校、79～60%が17校、59～40%が16校、39～20%が21校、19%以下が67校でした。

科目	人	%
物理	66	29.2
化学	94	41.6
生物	54	23.9
地学	10	4.4
その他	0	0.0
未入力	2	0.9
計	226	100.0



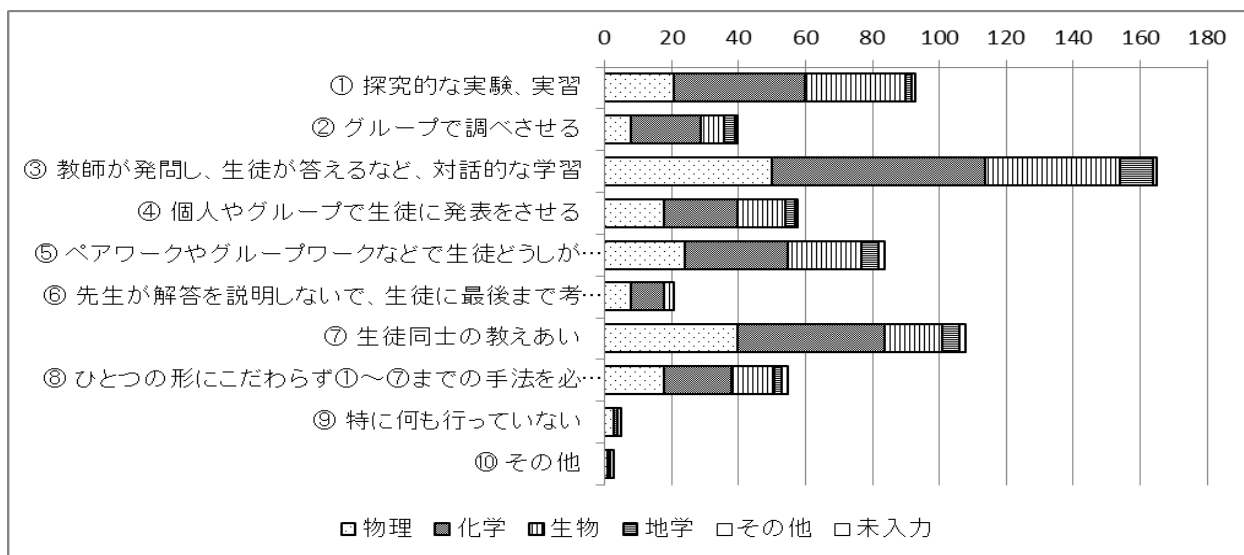
	進学率							合計
	90%以上	89～80%	79～60%	59～40%	39～20%	19%以下	無回答	
回答者数	74	23	18	16	21	67	7	226
学校数	56	19	17	15	20	58	7	192

アンケートの集計結果は、回答を寄せていただいた方にメールでご返信をし、全国理科研究大会の研究代表者会議で発表し、要旨を日本理化学協会発行の「理科」に掲載させていただきます。ご協力ありがとうございました。

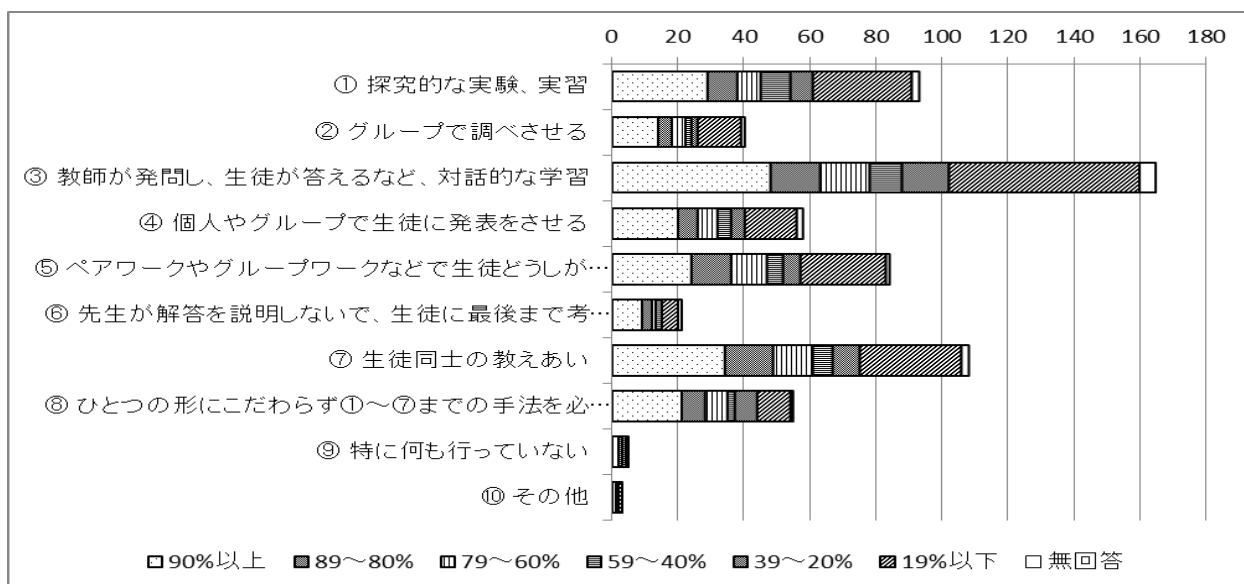
II 主体的・対話的で深い学びについて

- (1) 生徒の能動的な学習を主体とする授業（例えばアクティブラーニング型授業、「主体的・対話的で深い学び」など、以下「能動的な授業」とします）として、主にどのようなことを行っていますか。多いものを3つまでお選びください。

	物理	化学	生物	地学	その他	未入力	合計
① 探究的な実験、実習	21	39	30	2	0	1	93
② グループで調べさせる	8	21	7	3	0	1	40
③ 教師が発問し、生徒が答えるなど、対話的な学習	50	64	40	10	0	1	165
④ 個人やグループで生徒に発表をさせる	18	22	14	3	0	1	58
⑤ ペアワークやグループワークなどで生徒どうしが意見交換を行う	24	31	22	5	0	2	84
⑥ 先生が解答を説明しないで、生徒に最後まで考えさせるオープンエンドな学習	8	10	3	0	0	0	21
⑦ 生徒同士の教えあい	40	44	17	5	0	2	108
⑧ ひとつの形にこだわらず①～⑦までの手法を必要に応じて活用	18	20	13	2	0	2	55
⑨ 特に何も行っていない	3	1	1	0	0	0	5
⑩ その他	1	1	1	0	0	0	3



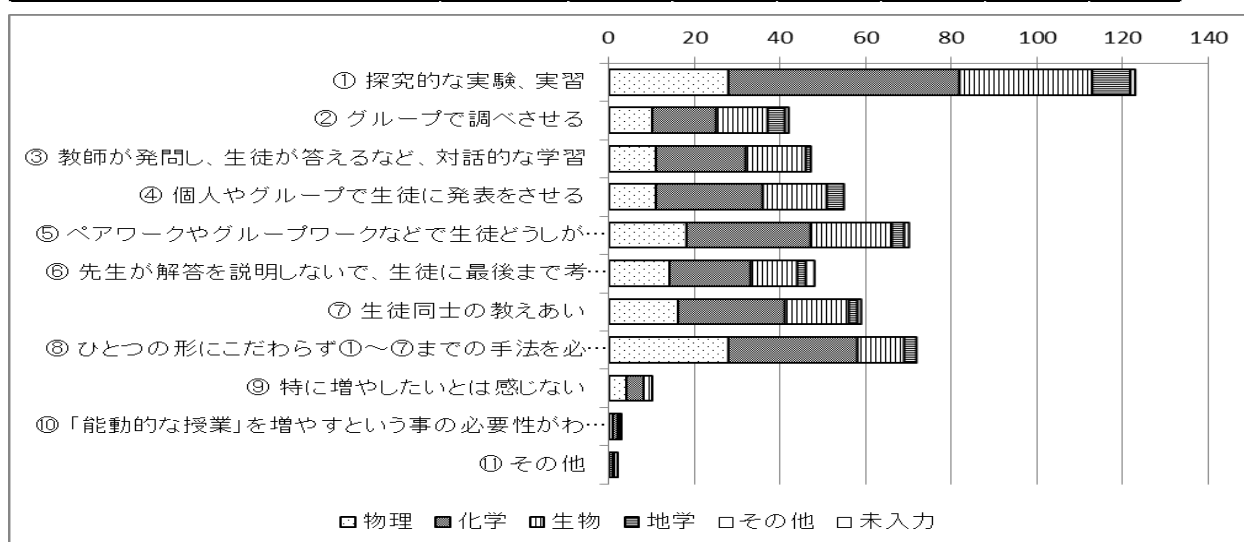
	90%以上	89～80%	79～60%	59～40%	39～20%	19%以下	無回答	合計
① 探究的な実験、実習	29	9	7	9	7	30	2	93
② グループで調べさせる	14	4	4	2	2	13	1	40
③ 教師が発問し、生徒が答えるなど、対話的な学習	48	15	15	10	14	58	5	165
④ 個人やグループで生徒に発表をさせる	20	6	6	4	4	16	2	58
⑤ ペアワークやグループワークなどで生徒どうしが意見交換を行う	24	12	11	5	5	26	1	84
⑥ 先生が解答を説明しないで、生徒に最後まで考えさせるオープンエンドな学習	9	3	1	2	0	5	1	21
⑦ 生徒同士の教えあい	34	15	12	6	8	31	2	108
⑧ ひとつの形にこだわらず①～⑦までの手法を必要に応じて活用	21	7	7	2	7	10	1	55
⑨ 特に何も行っていない	2	1	0	0	1	1	0	5
⑩ その他	0	0	1	1	0	1	0	3



その他) ・放課後に科学研究実践活動を行っている。 ・十分に準備をするだけの時間がありません。  
 ・グループ形体の個別学習 ・問題集中心の学習”

(2) あなたは、今後どのような「能動的な授業」を増やしたいと考えていますか。特に増やしたいものを3つまでお選びください。

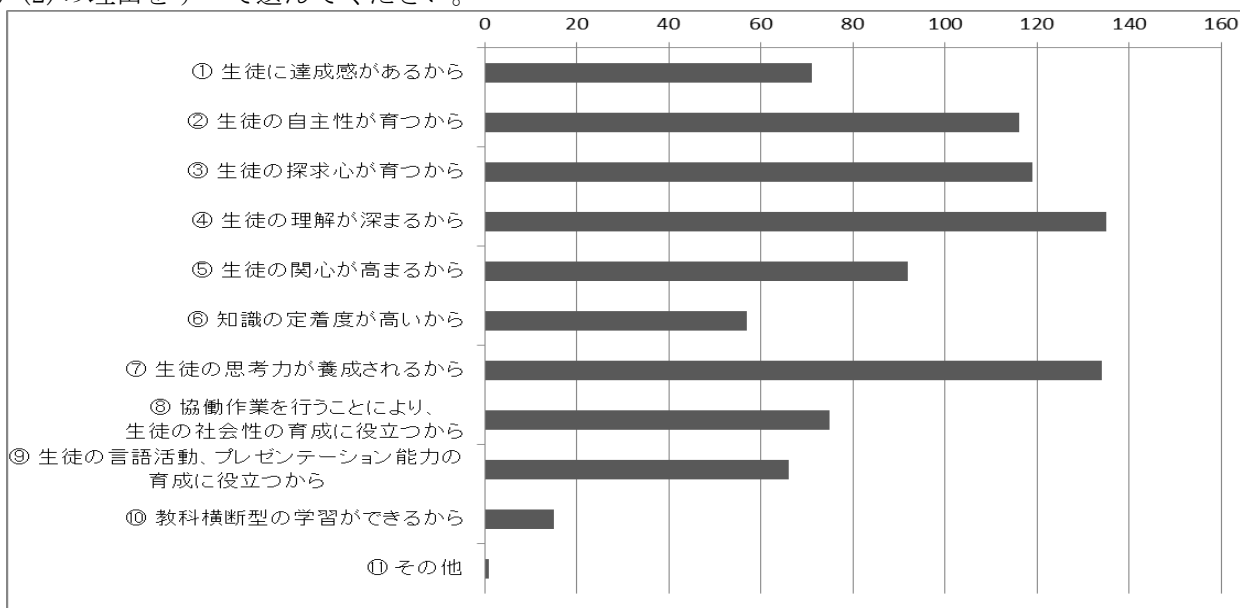
	物理	化学	生物	地学	その他	未入力	合計
① 探究的な実験、実習	28	54	31	9	0	1	123
② グループで調べさせる	10	15	12	4	0	1	42
③ 教師が発問し、生徒が答えるなど、対話的な学習	11	21	14	1	0	0	47
④ 個人やグループで生徒に発表をさせる	11	25	15	4	0	0	55
⑤ ペアワークやグループワークなどで生徒どうしが意見交換を行う	18	29	19	3	0	1	70
⑥ 先生が解答を説明しないで、生徒に最後まで考えさせるオープンエンドな学習	14	19	11	2	0	2	48
⑦ 生徒同士の教えあい	16	25	15	2	0	1	59
⑧ ひとつの形にこだわらず①～⑦までの手法を必要に応じて活用する	28	30	11	3	0	0	72
⑨ 特に増やしたいとは感じない	4	4	2	0	0	0	10
⑩ 「能動的な授業」を増やすという事の必要性がわからない	1	1	1	0	0	0	3
⑪ その他	0	1	1	0	0	0	2



	90%以上	89～80%	79～60%	59～40%	39～20%	19%以下	無回答	合計
① 探究的な実験、実習	40	13	9	9	12	36	4	123
② グループで調べさせる	7	7	3	3	7	15	0	42
③ 教師が発問し、生徒が答えるなど、対話的な学習	17	5	4	3	4	13	1	47
④ 個人やグループで生徒に発表をさせる	23	5	5	5	2	14	1	55
⑤ ペアワークやグループワークなどで生徒どうしが意見交換を行う	23	4	10	4	2	23	4	70
⑥ 先生が解答を説明しないで、生徒に最後まで考えさせるオープンエンドな学習	17	6	6	3	1	14	1	48
⑦ 生徒同士の教えあい	16	6	5	3	8	19	2	59
⑧ ひとつの形にこだわらず①～⑦までの手法を必要に応じて活用する	28	7	8	4	5	20	0	72
⑨ 特に増やしたいとは感じない	3	0	1	2	1	2	1	10
⑩ 「能動的な授業」を増やすという事の必要性がわからない	0	0	0	1	2	0	0	3
⑪ その他	0	0	0	0	1	0	1	2

その他)・通信制学校では、他生徒とのコミュニケーションが苦手な者も多く、そういった生徒に対人的内容を含む能動的な授業を行うことは厳しいため回答⑨を選択。 ・アクティブラーニングの手法を取り入れた生徒実験 ・⑩の補足「本当に理解したといえるのは、他者にわかるよう説明する工夫ができたとき」と考えると、その表現方法は決して能動的な授業だけに限らないと考えます。表現の方法が大勢と異なる生徒も、一見能動的でない手法で自らの意見を表明できるのであれば、全体で能動的な授業を増やすことを強要する必要はあるのか？

(3) (2)の理由をすべて選んでください。

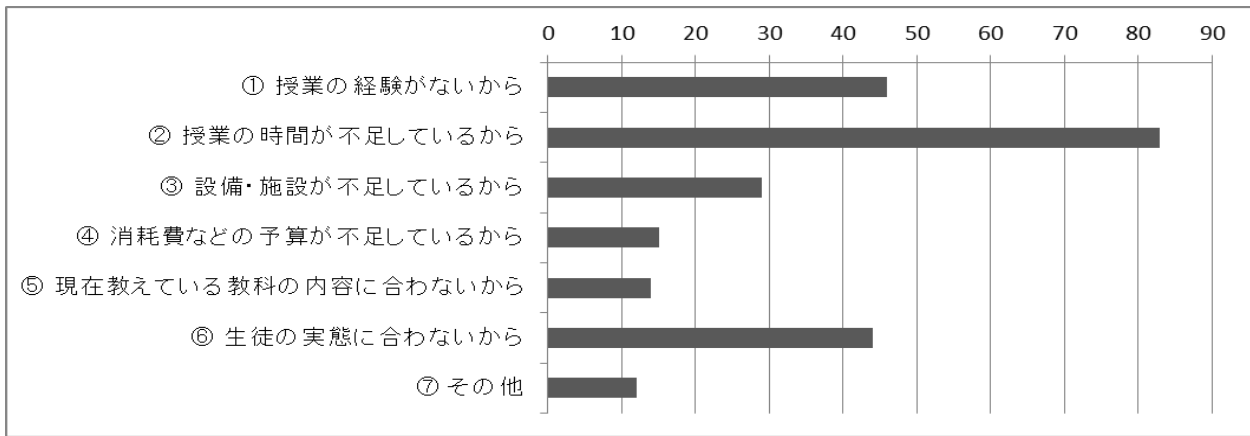


	① 生徒に達成感があるから	② 生徒の自主性が育つから	③ 生徒の探求心が育つから	④ 生徒の理解が深まるから	⑤ 生徒の関心が高まるから	⑥ 知識の定着度が高いから	⑦ 生徒の思考力が養成されるから	⑧ 協働作業を行うことにより、生徒の社会性の育成に役立つから	⑨ 生徒の言語活動、プレゼンテーション能力の育成に役立つから	⑩ 教科横断型の学習ができるから	⑪ その他	
<b>回答数</b>	71	116	119	135	92	57	134	75	66	15	1	
(2)の選択別回答数	① 探究的な実験、実習	49	70	79	76	56	30	81	42	39	10	0
	② グループで調べさせる	15	28	24	27	21	12	21	22	20	3	0
	③ 教師が発問し、生徒が答えるなど、対話的な学習	17	28	24	30	20	17	28	17	11	4	0
	④ 個人やグループで生徒に発表をさせる	18	27	34	36	25	15	26	18	24	5	0
	⑤ ペアワークやグループワークなどで生徒どうしが意見交換を行う	19	36	41	44	27	14	44	27	21	5	0
	⑥ 先生が解答を説明しないで、生徒に最後まで考えさせるオープンエンドな学習	10	26	27	26	13	8	35	14	11	2	0
	⑦ 生徒同士の教えあい	22	36	24	43	21	16	38	25	22	3	0
	⑧ ひとつの形にこだわらず①～⑦までの手法を必要に応じて活用する	22	42	39	50	38	24	51	27	24	7	0
	⑨ 特に増やしたいとは感じない	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1
	⑩ 「能動的な授業」を増やすという事の必要性がわからない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	⑪ その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

その他) 基礎が定着していない

(4) 今まで「能動的な授業」があまりできなかった方へ。その理由としてあてはまるものをすべてお書きください。

① 授業の経験がないから	46
② 授業の時間が不足しているから	83
③ 設備・施設が不足しているから	29
④ 消耗費などの予算が不足しているから	15
⑤ 現在教えている教科の内容に合わないから	14
⑥ 生徒の実態に合わないから	44
⑦ その他	12



その他) ・能動的になるような授業方法をあまり知らない。自分が受けたことの無い授業方法を実践するのに不安がある。

- ・特別支援学校で、高等部普通科の生徒が2名。学年が異なり、それぞれ教師と1体1で授業を行っている。生徒同士の授業での、関わりができない。 ・生徒数が少なく話し合う活動などは難しい。 ・生徒の自主性を高めるために効果的な授業展開の工夫がわからない。 ・十分に準備をするだけの時間がありません。 ・授業の準備・教材研究の時間がとれない
- ・取り組む準備をしていない
- ・現在、いわゆるAL型の授業を行っており、手ごたえを感じているが、準備に時間がかかる。クラス担任や生徒指導の対応、部活動顧問、年々負担の増加する校務分掌などを考えると、このまま続けていけるのか不安である。
- ・教材研究する時間が少ない。 ・教える内容についての教員の深い理解
- ・学校数過多および学校の小規模化による人員削減で、校務分掌(進路指導主事、時間割主任、部活の主顧問等)の負担が大きすぎて、教材研究の時間が取れない。能動的な学習には十分な授業研究が必要であるため。 ・課題等で既に能動的になっているから。 ・学力の差があるため。能動的な学習の前に、基礎の復習や確認が必要と考えるから。

(5) あなたは、能動的な授業における評価についてどのように行っていますか。評価の材料として取り入れているものを選択してください。(複数回答可)

① 知識やスキルを使いこなす(活用・応用・統合する)ことを求めるような評価方法。具体的には、論説文やレポート、展示物といった完成作品(プロダクト)や、スピーチやプレゼンテーション、協働での問題解決、実験の実施といった実演に於いての達成度を評価する。(いわゆるパフォーマンス評価)	114
② 成功の度合いを示す段階の数値の尺度と、それぞれのレベルに対応するパフォーマンスの特徴を示した記述語(評価規準)からなる評価基準表を用いて評価する。(いわゆるルーブリック評価)	38
③ 生徒が行うルーブリック等による自己評価	26
④ 生徒の学習の過程や成果などの記録や作品を計画的にファイル等に集積。そのファイル等を活用して生徒の学習状況を把握するとともに、生徒や保護者等に対し、その成長の過程や到達点、今後の課題等を示すことにより評価する。(いわゆるポートフォリオ評価)	29
⑤ 生徒との面談を活用した評価	4
⑥ 上記の①～⑤の評価法を授業の内容に合わせて組み合わせて評価する。	51
⑦ その他	15

その他) ・問題演習やテストで理解を測り評価する ・評価の基本は学習到達度のみで、能動的である部分についての評価は加味していない。 ・評価できていない。 ・評価しない ・特別な評価などをせず授業態度等の平常点として評価 ・特にない。 ・生徒の表情で判断しています。学びに夢中になっているか。あとは定期テストの点数で判断します。 ・実習助手のため、評価は行わない。 ・実験時のレポート内容、発問に対する積極的な発言、授業中や授業以外での質問等の取り組みを評価 ・実験レポートの内容(結果や考察)を評価している。 ・試験 ・学習内容ができた・できないに関わらず、取り組もう・協力しよう・助けを求めようという姿勢のあるものには一定以上の評価を与えている。 ・グループ学習を行っているが、どこに評価ポイントを定めるかまだ明確ではない。

(6) (5)で③を選択した人のみお答えください。生徒によるルーブリック等による自己評価は成績（評定）に反映されますか。

① 成績に反映させる	4
② 教員が行う評価と比較・検討する材料にはするが、直接的に成績には反映しない	18
③ 提出物として評価する	11
④ その他	0

(7) (5)で③を選択した人のみお答えください。あなたは授業時間の中で自己評価をさせたとき、生徒がその授業で学んだことや疑問点、理解不足、自身の取り組み状況等を振り返らせる時間を設けていますか。

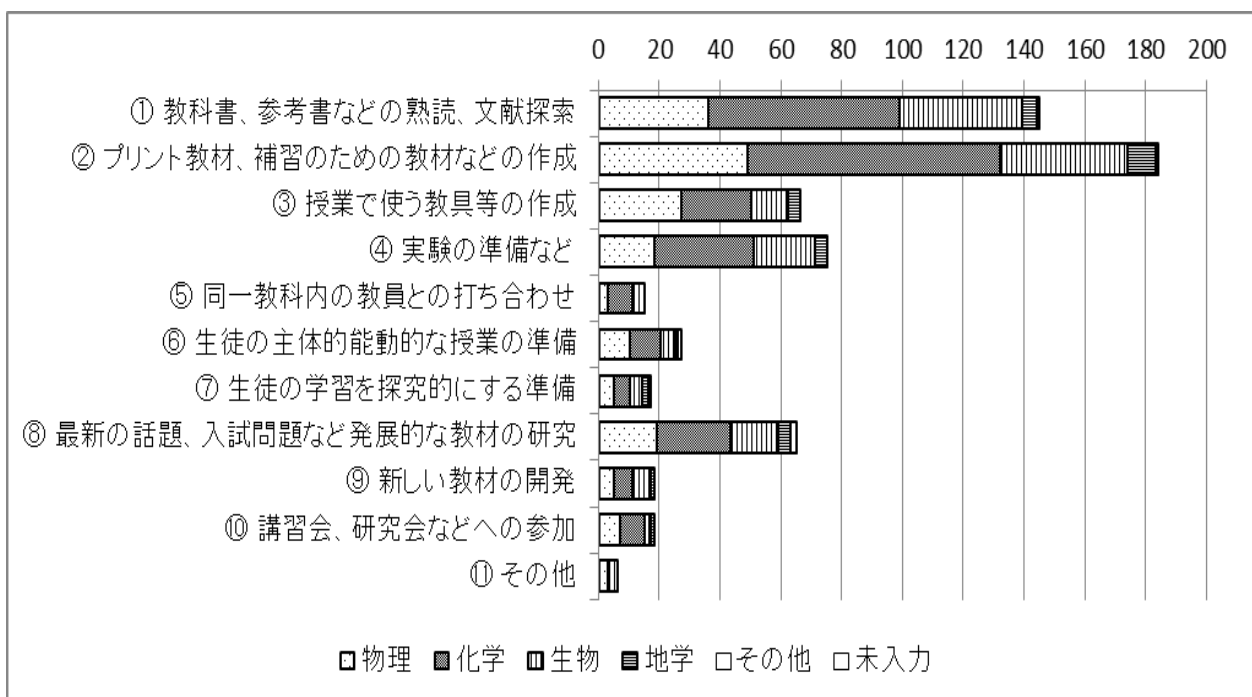
① 設けている	4
② 設けていない	18

### Ⅲ 教材準備（教材研究を含む）の時間について

最近、働き方改革が注目されています。ここでは、先生方の教材準備（教材研究を含む）と勤務時間の関係についてお聞きします。

(1) あなたが行っている教材準備（教材研究を含む）の中で、多いものを3つまでお選びください。

	物理	化学	生物	地学	その他	未入力	合計
① 教科書、参考書などの熟読、文献探索	36	63	40	5	0	1	145
② プリント教材、補習のための教材などの作成	49	83	42	9	0	1	184
③ 授業で使う教具等の作成	27	23	12	4	0	0	66
④ 実験の準備など	18	33	20	4	0	0	75
⑤ 同一教科内の教員との打ち合わせ	3	8	4	0	0	0	15
⑥ 生徒の主体的能動的な授業の準備	10	10	5	1	0	1	27
⑦ 生徒の学習を探究的にする準備	5	5	4	2	0	1	17
⑧ 最新の話題、入試問題など発展的な教材の研究	19	24	16	4	0	2	65
⑨ 新しい教材の開発	5	6	6	1	0	0	18
⑩ 講習会、研究会などへの参加	7	8	2	1	0	0	18
⑪ その他	3	0	3	0	0	0	6

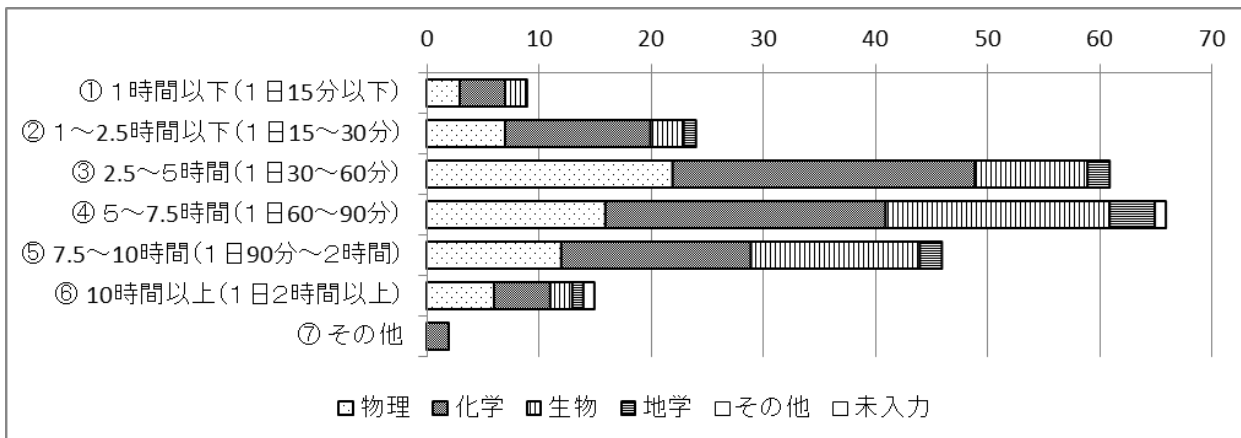


	90%以上	89～80%	79～60%	59～40%	39～20%	19%以下	無回答	合計
① 教科書、参考書などの熟読、文献探索	41	15	13	10	14	46	6	145
② プリント教材、補習のための教材などの作成	61	18	15	14	18	52	6	184
③ 授業で使う教具等の作成	24	4	6	2	7	17	6	66
④ 実験の準備など	22	4	5	7	7	29	1	75
⑤ 同一教科内の教員との打ち合わせ	6	2	0	2	2	3	0	15
⑥ 生徒の主体的能動的な授業の準備	9	3	2	1	5	7	0	27
⑦ 生徒の学習を探究的にする準備	9	4	0	1	1	2	0	17
⑧ 最新の話題、入試問題など発展的な教材の研究	25	9	6	5	2	18	0	65
⑨ 新しい教材の開発	6	4	0	0	3	5	0	18
⑩ 講習会、研究会などへの参加	6	1	3	1	2	5	0	18
⑪ その他	1	0	0	0	1	3	1	6

その他)・未熟ながら6,7をもりこんだプリント作成(3)を実施している・板書計画・伝え方の工夫やより見やすい板書・指導案の考察・ビデオ視聴のためのビデオ教材の準備・①～⑨全てです。

(2) あなたが、教材準備(教材研究を含む)にあてている時間は勤務時間内では週にどれくらいでしょうか。授業が週に5日ある一般的な週でお答えください。(長期休業中などを除く)

	物理	化学	生物	地学	その他	未入力	合計
① 1時間以下(1日15分以下)	3	4	2	0	0	0	9
② 1～2.5時間以下(1日15～30分)	7	13	3	1	0	0	24
③ 2.5～5時間(1日30～60分)	22	27	10	2	0	0	61
④ 5～7.5時間(1日60～90分)	16	25	20	4	0	1	66
⑤ 7.5～10時間(1日90分～2時間)	12	17	15	2	0	0	46
⑥ 10時間以上(1日2時間以上)	6	5	2	1	0	1	15
⑦ その他	0	2	0	0	0	0	2



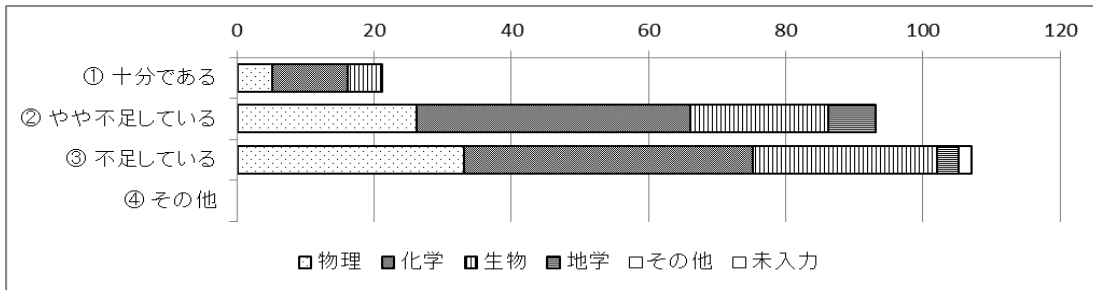
	90%以上	89～80%	79～60%	59～40%	39～20%	19%以下	無回答	合計
① 1時間以下(1日15分以下)	4	2	0	0	0	3	0	9
② 1～2.5時間以下(1日15～30分)	6	1	4	4	4	3	2	24
③ 2.5～5時間(1日30～60分)	22	4	4	6	3	20	2	61
④ 5～7.5時間(1日60～90分)	19	9	7	3	7	20	1	66
⑤ 7.5～10時間(1日90分～2時間)	16	3	3	2	6	16	0	46
⑥ 10時間以上(1日2時間以上)	6	2	0	1	1	3	2	15
⑦ その他	0	1	0	0	0	1	0	2

その他)・通信制のため準備時間は長めにとれる。・15時間



(3) あなたが、教材準備（教材研究を含む）にあてている時間は十分だと思いますか。

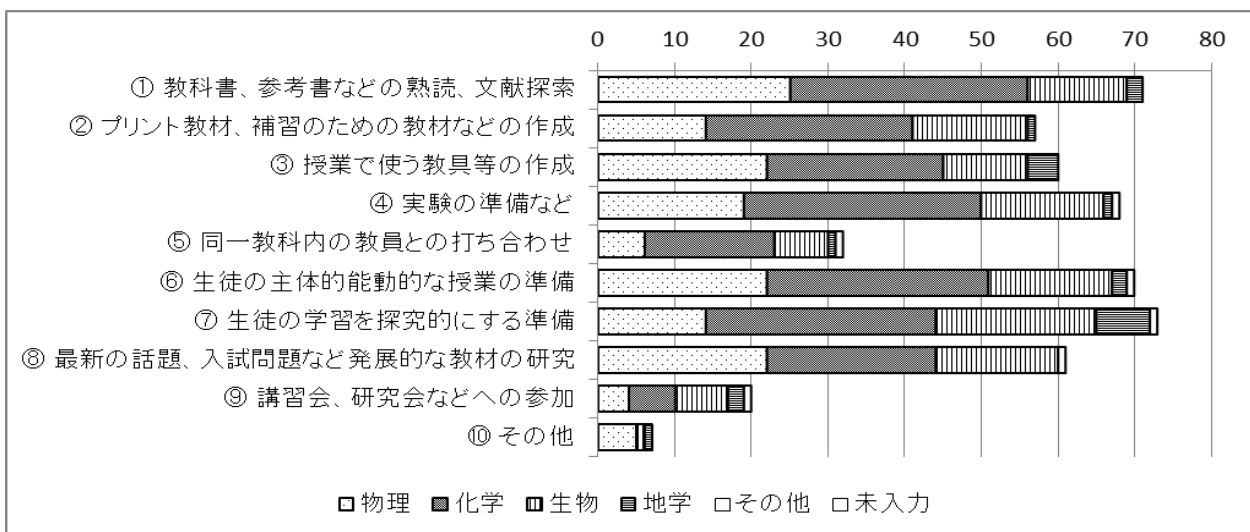
	物理	化学	生物	地学	その他	未入力	合計
① 十分である	5	11	5	0	0	0	21
② やや不足している	26	40	20	7	0	0	93
③ 不足している	33	42	27	3	0	2	107
④ その他	0	0	0	0	0	0	0



	90%以上	89～80%	79～60%	59～40%	39～20%	19%以下	無回答	合計
① 十分である	8	2	2	1	1	5	2	21
② やや不足している	36	8	8	8	9	23	1	93
③ 不足している	27	12	8	7	11	38	4	107
④ その他	0	0	0	0	0	0	0	0

(4) あなたが行っている教材準備（教材研究を含む）で、特に時間が不足していると感じるものを3つまでお選びください。

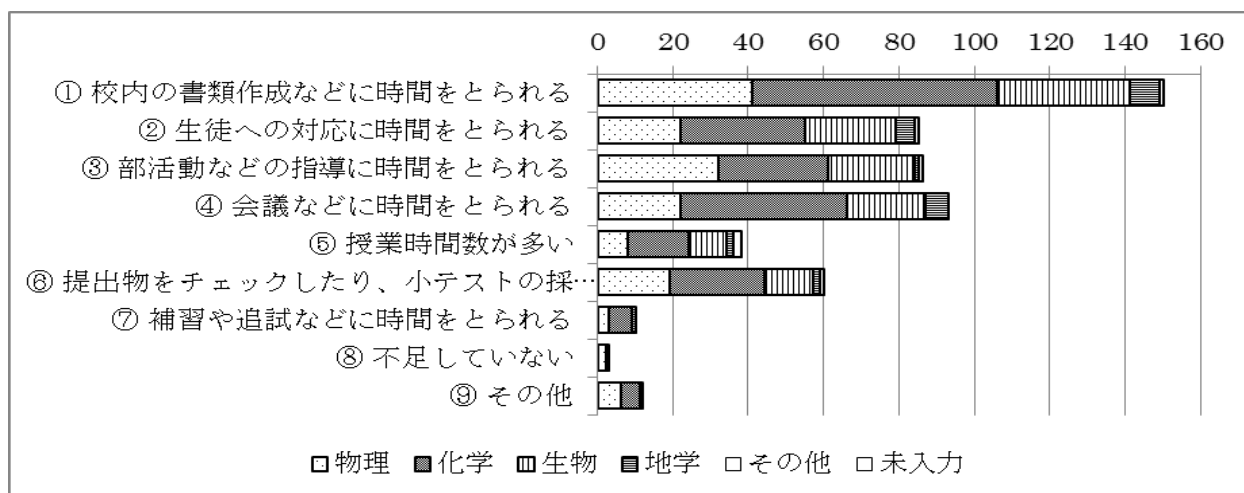
	物理	化学	生物	地学	その他	未入力	合計
① 教科書、参考書などの熟読、文献探索	25	31	13	2	0	0	71
② プリント教材、補習のための教材などの作成	14	27	15	1	0	0	57
③ 授業で使う教具等の作成	22	23	11	4	0	0	60
④ 実験の準備など	19	31	16	1	0	1	68
⑤ 同一教科内の教員との打ち合わせ	6	17	7	1	0	1	32
⑥ 生徒の主体的能動的な授業の準備	22	29	16	2	0	1	70
⑦ 生徒の学習を探究的にする準備	14	30	21	7	0	1	73
⑧ 最新の話題、入試問題など発展的な教材の研究	22	22	16	0	0	1	61
⑨ 講習会、研究会などへの参加	4	6	7	2	0	1	20
⑩ その他	5	0	1	1	0	0	7



その他) ・特にこれとってないが、いつも何かは足りない。 ・身近な事象やニュースと関連させる。 ・見聞を広める  
 ・授業内容の理解、授業の進め方、板書計画など ・手話表現の確認 ・指導案の考察

(5) 勤務時間内に行える教材準備（教材研究を含む）の時間が不足している理由として多くあてはまるものを3つまでお選びください。

	物理	化学	生物	地学	その他	未入力	合計
① 校内の書類作成などに時間をとられる	41	65	35	8	0	1	150
② 生徒への対応に時間をとられる	22	33	24	5	0	1	85
③ 部活動などの指導に時間をとられる	32	29	23	1	0	1	86
④ 会議などに時間をとられる	22	44	21	6	0	0	93
⑤ 授業時間数が多い	8	16	10	2	0	2	38
⑥ 提出物をチェックしたり、小テストの採点等に時間をとられる	19	25	13	2	0	1	60
⑦ 補習や追試などに時間をとられる	3	6	0	1	0	0	10
⑧ 不足していない	2	1	0	0	0	0	3
⑨ その他	6	5	1	0	0	0	12



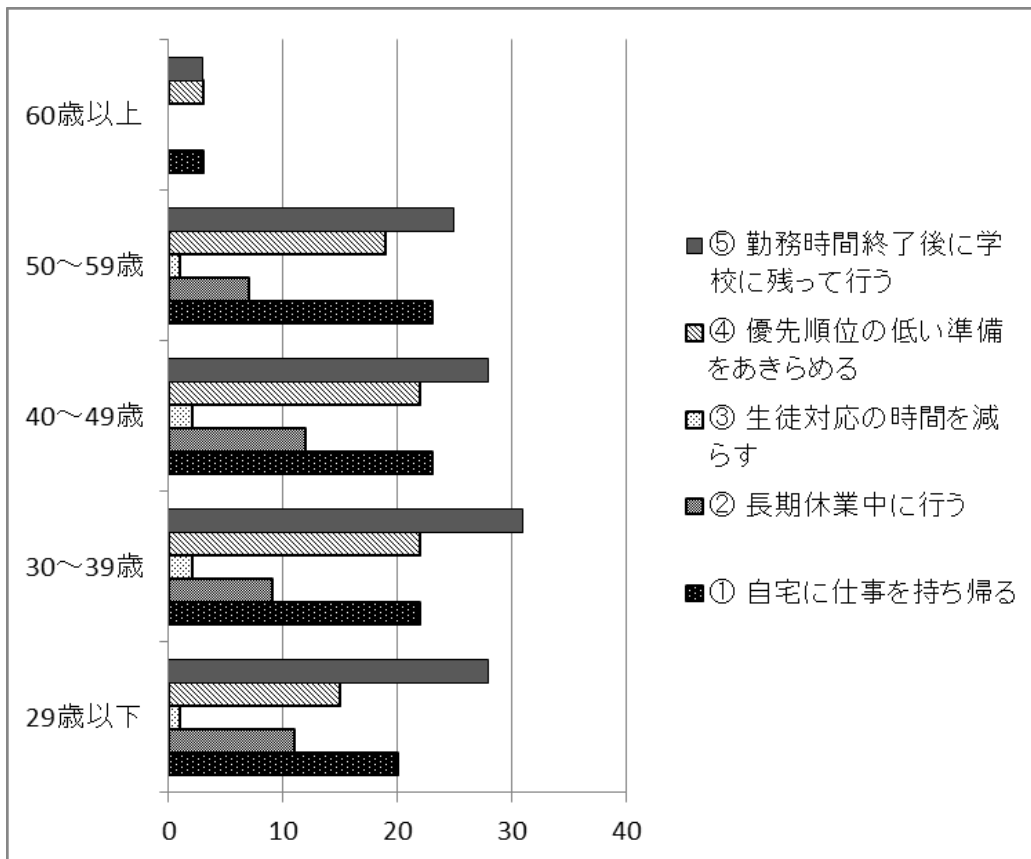
	90%以上	89～80%	79～60%	59～40%	39～20%	19%以下	無回答	合計
① 校内の書類作成などに時間をとられる	39	15	16	11	17	49	3	150
② 生徒への対応に時間をとられる	17	7	7	9	8	35	2	85
③ 部活動などの指導に時間をとられる	33	4	5	6	7	29	2	86
④ 会議などに時間をとられる	34	9	6	4	13	24	3	93
⑤ 授業時間数が多い	11	10	3	4	3	5	2	38
⑥ 提出物をチェックしたり、小テストの採点等に時間をとられる	27	5	4	6	5	13	0	60
⑦ 補習や追試などに時間をとられる	6	1	0	1	0	1	1	10
⑧ 不足していない	1	0	0	0	0	2	0	3
⑨ その他	2	1	1	0	3	4	1	12

その他) ・理化部会事務局業務 ・保護者対応や教員への対応、行事等への対応など、校内の各種問題の対応に注意が向きがちで、肝心の授業をおろそかにしてしまっている。 ・平日は教務主任としての業務が7:00から21:00ころまで続いてしまいます。その後家に持ち帰って授業の予習をします。土日は平日に行けない部活動に行き、大会や練習試合・遠征含むで丸々1日がつぶれてしまう。実験準備はどうい後回しにならざるを得ません。 ・非常勤講師であるため、勤務時間＝授業時間なので ・中学校の授業準備に時間をとられる。 ・今年度異動してきたので、本校における行事等の進め方や、本校での自分の役回りをつかみきれていないため。校務分掌に時間がとられる。 ・校務分掌に関わることで時間がとられてしまう。 ・公務分掌など ・"学校行事の企画・運営に時間をかけている ・外部機関との連絡・調整に時間をとられる ・育児短時間勤務のため、勤務時間が授業時間にあてられるため、教材研究をする時間がない。 ・ミドルリーダーのため、管理職の学校経営や学校運営の補助、他教諭の指導・助言等、開かれた教育課程のための地域との交流に必要なため。 ・教材研究に十分はない。知れば知るほど奥は深いし、工夫に完全なものはない。

(6) (5)で⑧を回答した方以外の方に質問します。あなたは、教材準備（教材研究を含む）にあてている時間が不足していることについてどう対応していますか。あてはまるものをすべてお選びください。

	物理	化学	生物	地学	その他	未入力	合計
① 自宅に仕事を持ち帰る	29	38	21	3	0	2	93
② 長期休業中に行う	13	14	11	1	0	1	40
③ 生徒対応の時間を減らす	3	2	1	0	0	0	6
④ 優先順位の低い準備をあきらめる	26	34	18	3	0	0	81
⑤ 勤務時間終了後に学校に残って行う	37	46	27	5	0	2	117
⑥ その他	2	2	1	1	0	0	6

	90%以上	89～80%	79～60%	59～40%	39～20%	19%以下	無回答	合計
① 自宅に仕事を持ち帰る	33	7	9	7	8	25	4	93
② 長期休業中に行う	10	2	6	4	6	10	2	40
③ 生徒対応の時間を減らす	3	1	0	0	0	2	0	6
④ 優先順位の低い準備をあきらめる	21	9	7	6	10	25	3	81
⑤ 勤務時間終了後に学校に残って行う	41	6	13	10	10	33	4	117
⑥ その他	0	1	0	0	1	4	0	6



その他) ・内容によって①～⑤を使い分ける。 ・電車の中で勉強する。 ・週休日に準備する ・研究の合間に行う ・勤務時間前に学校に来て行う ・学校数過多および学校の小規模化による人員削減で、校務分掌（進路指導主事、時間割主任、部活の主顧問等）の負担が大きすぎて、教材研究の時間が取れない。また、進路担当であると、夏季休業がまともに機能していないので当てにならない。

(7) あなたが教材準備（教材研究を含む）を行うことにより、特に効果があがっていることを3つまでお選びください。

	物理	化学	生物	地学	その他	未入力	合計
① 生徒の理解が深まる	40	59	35	5	0	1	140
② 生徒の定着度が上がる	17	28	12	1	0	0	58
③ 生徒の教科への興味・関心が深まる	31	46	28	6	0	0	111
④ 生徒の思考力が深まる	18	15	6	0	0	1	40
⑤ 生徒の探究心が高まる	4	8	4	0	0	2	18
⑥ 学習が遅れがちな生徒への対応ができる	8	11	3	2	0	0	24
⑦ 学習が進んでいる生徒への対応ができる	5	5	2	0	0	0	12
⑧ 教員自身の授業力が高まる	23	35	26	5	0	2	91
⑨ その他	2	5	3	0	0	0	10

	90%以上	89～80%	79～60%	59～40%	39～20%	19%以下	無回答	合計
① 生徒の理解が深まる	41	15	11	9	15	45	4	140
② 生徒の定着度が上がる	16	7	3	4	7	21	0	58
③ 生徒の教科への興味・関心が深まる	29	12	10	9	12	36	3	111
④ 生徒の思考力が深まる	18	4	2	0	3	12	1	40
⑤ 生徒の探究心が高まる	6	1	2	0	3	6	0	18
⑥ 学習が遅れがちな生徒への対応ができる	5	1	1	1	0	15	1	24
⑦ 学習が進んでいる生徒への対応ができる	6	0	1	0	0	5	0	12
⑧ 教員自身の授業力が高まる	33	9	9	10	6	20	4	91
⑨ その他	4	1	0	1	1	2	1	10

その他) ・生徒の共働力、進度の向上 ・生徒が自身の成長（達成感）を感じることができる ・授業を速く進められる。

(8) あなたが教材準備（教材研究を含む）を行っているが、思うように成果があがっていないことを3つまでお選びください。

	物理	化学	生物	地学	その他	未入力	合計
① 生徒の理解が深まる	8	14	11	1	0	0	34
② 生徒の定着度が上がる	21	25	14	5	0	1	66
③ 生徒の教科への興味・関心が深まる	12	20	9	0	0	0	41
④ 生徒の思考力が深まる	19	25	22	4	0	1	71
⑤ 生徒の探究心が高まる	21	20	23	3	0	1	68
⑥ 学習が遅れがちな生徒への対応ができる	22	28	14	2	0	1	67
⑦ 学習が進んでいる生徒への対応ができる	14	29	9	2	0	0	54
⑧ 教員自身の授業力が高まる	3	8	2	0	0	1	14
⑨ その他	2	5	1	0	0	0	8

	90%以上	89～80%	79～60%	59～40%	39～20%	19%以下	無回答	合計
① 生徒の理解が深まる	8	2	2	3	3	14	2	34
② 生徒の定着度が上がる	15	7	9	5	6	24	0	66
③ 生徒の教科への興味・関心が深まる	13	5	3	7	5	7	1	41
④ 生徒の思考力が深まる	13	11	7	8	6	24	2	71
⑤ 生徒の探究心が高まる	24	8	4	4	6	20	2	68
⑥ 学習が遅れがちな生徒への対応ができる	27	8	5	5	5	16	1	67
⑦ 学習が進んでいる生徒への対応ができる	16	2	2	4	6	22	2	54
⑧ 教員自身の授業力が高まる	5	1	0	0	1	7	0	14
⑨ その他	4	0	0	1	1	2	0	8

その他) ・理科室がなく、実験が行えないので、実際に体験できることができない。

#### IV 大学入学共通テスト試行調査（プレテスト）について

センター試験に代わる大学入試として大学入学共通テストが予定され、その試行調査（プレテスト）が平成29年に行われました。今回の試行調査（プレテスト）の特徴として以下のような分析がありますが、これらの試行調査（プレテスト）の傾向についてどのようにお考えですか。最も適当なものを一つお答えください。

<物理・化学 試行調査（プレテスト）の主な特徴>

回答者全員	① 良いと思う	② 良いと思うが工夫が必要だと思う	③ 特に何も思わない	④ 良くない傾向だと思う
(1)日常生活と関連した設問が増加した。	85	83	25	10
(2)数値計算の割合が増加し、センター数学のような数値を直接マークする設問があった。	75	80	35	13
(3)実験の手順の把握、実験データの解析やグラフの書き方など、実験に関する設問が増加した。	104	86	12	3
(4)リード文が会話文となり、その中から内容を解釈し、情報を引き出させる設問があった。	63	66	47	23
(5)選択肢において、「すべて選べ」という形式が増加。また、該当するものがない場合の選択肢が設定された。過不足なく解答できた場合のみ点を与える採点方法を採用していた。	71	75	34	24
(6)前問で誤った答えを選択していても、次の問題で計算手順が合っていれば正答となる設問があった。	85	62	23	33
(7)選択問題がなくなり、すべて必答問題となった。	98	51	40	15
(8)グラフを利用して考察をする問題があった。	160	34	10	1

物理を専門とする回答者	① 良いと思う	② 良いと思うが工夫が必要だと思う	③ 特に何も思わない	④ 良くない傾向だと思う
(1)日常生活と関連した設問が増加した。	20	28	9	6
(2)数値計算の割合が増加し、センター数学のような数値を直接マークする設問があった。	20	27	10	6
(3)実験の手順の把握、実験データの解析やグラフの書き方など、実験に関する設問が増加した。	28	31	4	0
(4)リード文が会話文となり、その中から内容を解釈し、情報を引き出させる設問があった。	19	15	13	14
(5)選択肢において、「すべて選べ」という形式が増加。また、該当するものがない場合の選択肢が設定された。過不足なく解答できた場合のみ点を与える採点方法を採用していた。	17	28	11	6
(6)前問で誤った答えを選択していても、次の問題で計算手順が合っていれば正答となる設問があった。	28	19	5	11
(7)選択問題がなくなり、すべて必答問題となった。	34	18	7	4
(8)グラフを利用して考察をする問題があった。	50	11	2	0

化学を専門とする回答者	① 良いと思う	② 良いと思うが工夫が必要だと思う	③ 特に何も思わない	④ 良くない傾向だと思う
(1)日常生活と関連した設問が増加した。	40	38	9	2
(2)数値計算の割合が増加し、センター数学のような数値を直接マークする設問があった。	35	32	14	7
(3)実験の手順の把握、実験データの解析やグラフの書き方など、実験に関する設問が増加した。	49	34	4	3
(4)リード文が会話文となり、その中から内容を解釈し、情報を引き出させる設問があった。	31	29	21	7
(5)選択肢において、「すべて選べ」という形式が増加。また、該当するものがない場合の選択肢が設定された。過不足なく解答できた場合のみ点を与える採点方法を採用していた。	35	31	12	12
(6)前問で誤った答えを選択していても、次の問題で計算手順が合っていれば正答となる設問があった。	36	30	9	14
(7)選択問題がなくなり、すべて必答問題となった。	48	23	17	2
(8)グラフを利用して考察をする問題があった。	70	16	4	0

<生物 試行調査（プレテスト）の主な特徴>

回答者全員	① 良いと思う	② 良いと思うが工夫が必要だと思う	③ 特に何も思わない	④ 良くない傾向だと思う
(1)日常生活と関連した設問が増加した。	57	58	21	8
(2)数値計算の割合が増加し、センター数学のような数値を直接マークする設問があった。	81	51	11	3
(3)実験の手順の把握、実験データの解析やグラフの書き方など、実験に関する設問が増加した。	95	40	10	2
(4)リード文が会話文となり、その中から内容を解釈し、情報を引き出させる設問があった。	95	37	14	1

生物を専門とする回答者	① 良いと思う	② 良いと思うが工夫が必要だと思う	③ 特に何も思わない	④ 良くない傾向だと思う
(1)日常生活と関連した設問が増加した。	21	20	7	3
(2)数値計算の割合が増加し、センター数学のような数値を直接マークする設問があった。	28	19	4	1
(3)実験の手順の把握、実験データの解析やグラフの書き方など、実験に関する設問が増加した。	32	16	3	1
(4)リード文が会話文となり、その中から内容を解釈し、情報を引き出させる設問があった。	30	16	6	0

<地学 試行調査（プレテスト）の主な特徴>

回答者全員	① 良いと思う	② 良いと思うが工夫が必要だと思う	③ 特に何も思わない	④ 良くない傾向だと思う
(1)日常生活と関連した設問が増加した。	31	63	21	17
(2)数値計算の割合が増加し、センター数学のような数値を直接マークする設問があった。	76	36	17	2
(3)実験の手順の把握、実験データの解析やグラフの書き方など、実験に関する設問が増加した。	32	58	20	22
(4)リード文が会話文となり、その中から内容を解釈し、情報を引き出させる設問があった。	50	45	24	11

地学を専門とする回答者	① 良いと思う	② 良いと思うが工夫が必要だと思う	③ 特に何も思わない	④ 良くない傾向だと思う
(1)日常生活と関連した設問が増加した。	1	4	3	2
(2)数値計算の割合が増加し、センター数学のような数値を直接マークする設問があった。	6	2	2	0
(3)実験の手順の把握、実験データの解析やグラフの書き方など、実験に関する設問が増加した。	1	4	4	1
(4)リード文が会話文となり、その中から内容を解釈し、情報を引き出させる設問があった。	3	3	4	0